

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	252	科目名	生物総合評価管理学2		サブネーム	遺伝子組換え生物のリスク評価と管理2		
共催機関名		レベル	中級		講義枠	水曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要	生物多様性の保護と遺伝子組み換え技術の登場によって人工的に作られる遺伝子組み換え生物(GMO)のリスク評価の考え方、利用についての議論の展開について概観する。							

サブタイトル	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
組換え生物のリスク評価	1 生物多様性の基本的考え方	生物多様性の広い概念について解説する。	10月5日	1号館205	堅尾 和夫	お茶の水女子大学
	2 生物多様性条約、カルタヘナ議定書	OECDでの議論から生物多様性条約下での論議へ、さらにはUNEPガイドライン、カルタヘナ議定書への議論の流れを開説する。	10月12日		炭田 精造	バイオインダストリー協会
	3 カルタヘナ議定書及び海外の動き	制定の経緯、背景、現在の論点及び日本の国内法や実務との関わりについて解説する。	10月19日		渡辺 和男	筑波大学
	4 リスク分析の考え方と閉鎖系での審査におけるリスク評価	リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションの考え方(概観)	11月5日(土)	1号館101	吉倉 廣	国立感染症研究所 名誉所員(前所長)
	5 開放系での審査におけるリスク評価	遺伝子組換え微生物の開放系利用に限定し、予め予測しうる組換え微生物の人や動植物等へのリスクの評価(事前評価)、利用過程でのリスクのモニタリングと評価、リスクの管理と利用終了の判断(事後評価)等について、講義する。	11月9日	1号館205	藤田 正憲	大阪大学
	6 開放系での審査におけるリスク評価(農作物)	カルタヘナ法に基づく第1種使用等について、生物多様性影響評価の考え方、仕組み及び実際の評価内容について講義する。	11月16日		田部井 豊	農業生物資源研究所
組換え生物の利用と管理	7 ゲノム工学を利用したこれからのリスク管理	環境中に存在する多彩な病原微生物及び一般細菌を培養法で網羅的に解析するのは実現不可能であるが、蓄積された遺伝情報を使えば、既にわかった微生物の遺伝子を網羅的にモニタリングすることができる。	11月30日	1号館205	江崎孝行	岐阜大学
	8 バイオテクノロジーと市民とのコミュニケーション	バイオテクノロジーについて市民にわかりやすく伝えることの重要性や、そのときに何を留意する必要があるかについて、遺伝子組み換え食品や個人遺伝情報保護に関する具体的な事例を挙げて講義する。	12月14日		佐々 義子	くらしとバイオプラザ21
	9 地方自治体の反応	地方自治体は、なぜ組換え作物の栽培に対して過剰な反応を示すのか?北海道等の動きとその意味を考える。	12月21日		富田房男	放送大学北海道学習センター所長
	10 組換えDNA技術の社会展開	組換えDNA技術の実用化、社会への展開、リスク管理、社会とのコミュニケーションを進めるためのビジョンについて、講義する。	1月11日		山根 精一郎	日本モンサント
	11 組換えDNA技術と環境問題	環境問題への遺伝子組換え技術利用の動きを紹介した上で、環境問題への遺伝子組換え技術利用におけるリスクと安全性評価を議論する。さらに環境問題のリスクと遺伝子組換え技術利用のベネフィットを踏まえた議論において、環境問題への遺伝子組換え技術利用の可能性を考察	1月18日		福田 雅夫	長岡技術科学大学
	12 組換えDNA技術と食料問題	食料確保、そしてその手段は何か?リスクベネフィット 今後の食糧問題を概観し、組換えDNA技術がどのように食糧問題の解決に寄与できるかについて講義する。	1月25日		田部井 豊	農業生物資源研究所
	13 今後の安心と安全問題	遺伝子組み換え生物のリスク評価に関する議論の現状と今後の課題について考える。	2月8日		堅尾 和夫	お茶の水女子大学